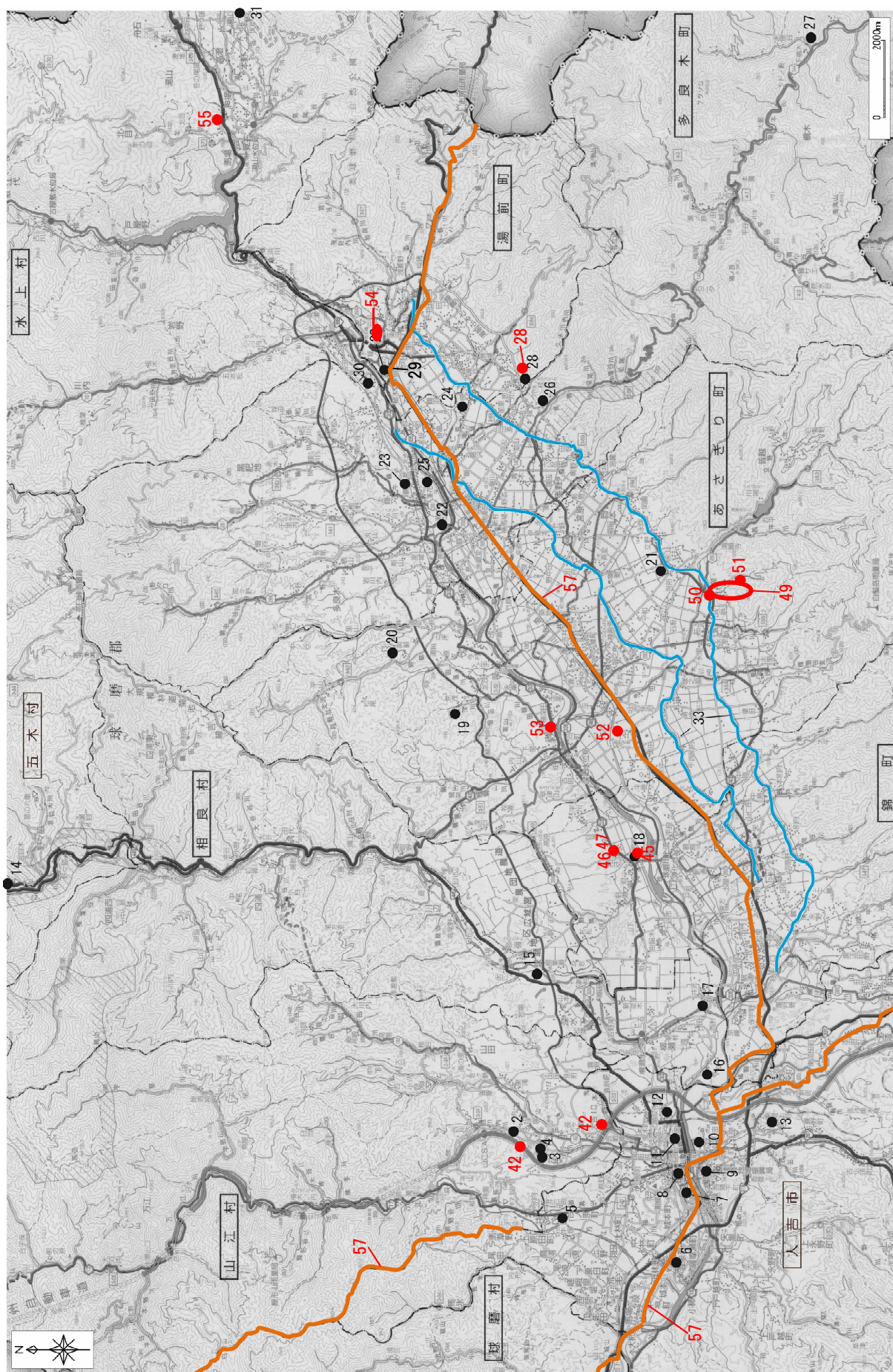
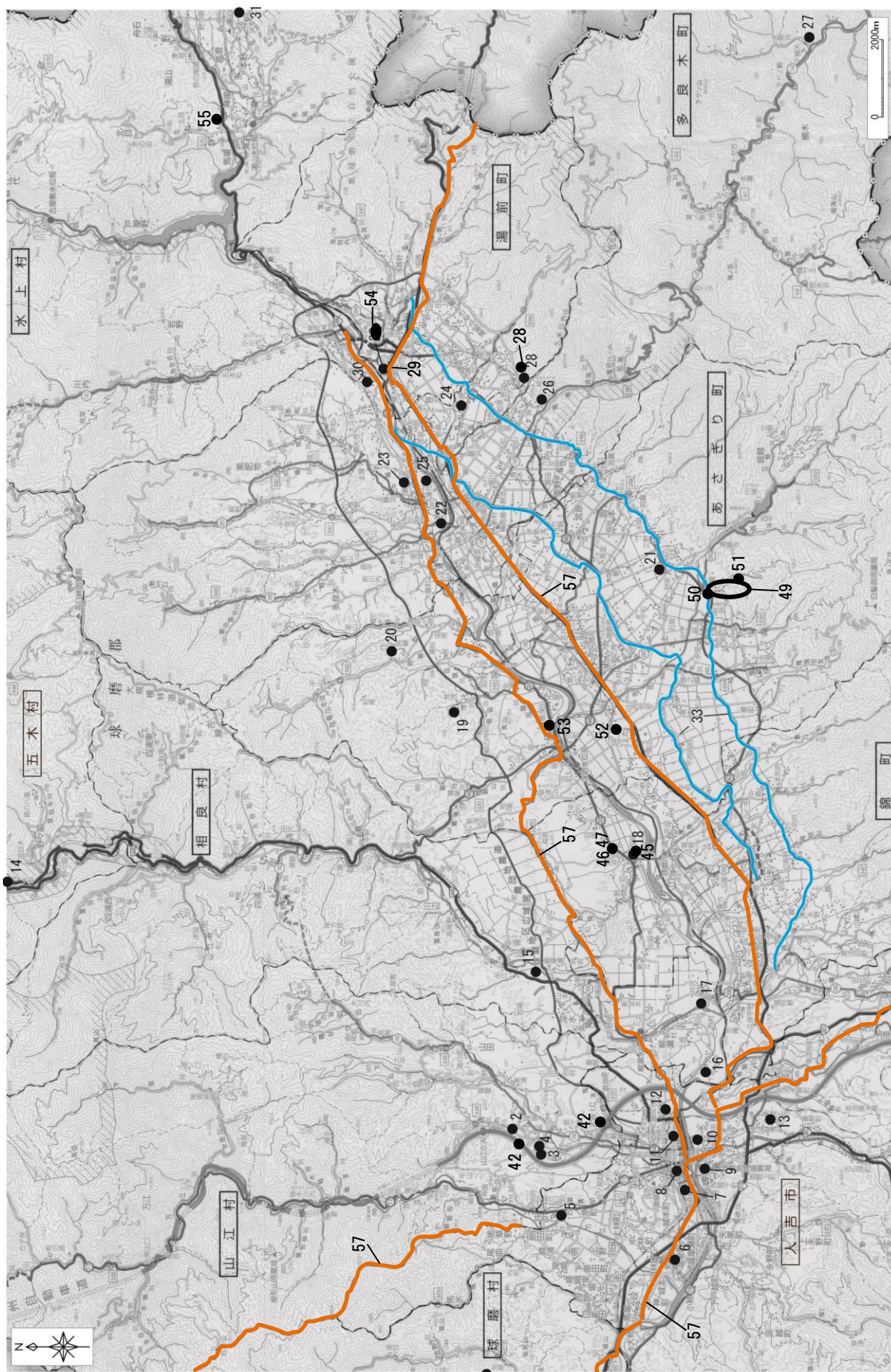


① 申請者	◎人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
相良 700 年が生んだ保守と進取の文化 ～ 日本でもっとも豊かな隠れ里 ― 人吉球磨 ～			
④ ストーリーの概要 (200 字程度)			
<p>人吉球磨の領主相良氏は、急峻な九州山地に囲まれた地の利を生かして外敵の侵入を拒み、日本史上稀な「相良 700 年」と称される長きにわたる統治を行った。その中で領主から民衆までが一体となったまちづくりの精神が形成され、社寺や仏像群、神楽等をともに信仰し、楽しみ、守る文化が育まれた。同時に進取の精神をもってたたかひに外来の文化を吸収し、独自の食文化や遊戯、交通網が整えられた。保守と進取、双方の精神から昇華された文化の証が集中して現存している地域は他になく、日本文化の縮図を今に見ることができる地域であり、司馬遼太郎はこの地を「日本でもっとも豊かな隠れ里」と記している。</p>			
<div data-bbox="161 999 810 1429" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="826 999 1380 1429" data-label="Image"> </div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	人吉市教育委員会 歴史遺産課 保存活用係 三村 講介		
電 話	0966-22-2324	FAX	0966-22-2134
E-mail	rekishiisan@city.hitoyoshi.lg.jp		
住 所	〒868-8601 熊本県人吉市麓町 1 6 番地		



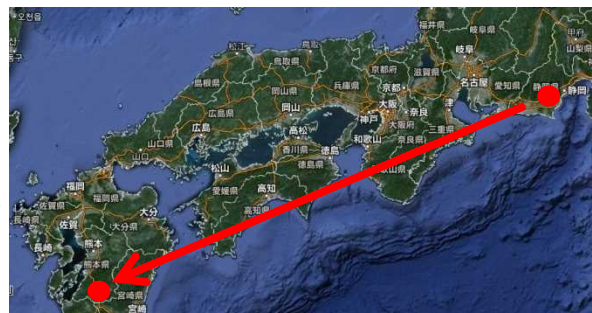
構成文化財の位置図



ストーリー

【相良文化の成り立ちと特徴】

今から800年もの昔、源頼朝の命を受けて、
 遠江国相良荘（現在の静岡県牧之原市）から相良
 のお殿様がこの人吉球磨の地に来られました。その
 後、明治維新を迎えるまで、なんと700年もの長
 きにわたり、この地を治められたのです。しかし、
 この偉業を達成するには大変な苦勞がありました。



遠江国相良荘から人吉球磨の地へ

「険しい山々に囲まれた土地であれば、外敵の侵入
 は防ぐことができる。しかしその地形と球磨川の恵みによって 古^{いにしえ}から育まれた独自性の強い土地
 柄、個性の強い民衆の中に入っていくにはどうしたものか・・・。」悩んだお殿様の最初の秘策は・・・
 「まずは、これまでの伝統文化を認めることから始めよう！」自我の強い民衆の心をつかむため、
 入国以前の領主に関わる神社仏閣や仏様を残すことにしたのです。心のより所を安堵^{あんど}できた民衆は
 喜びました。「今度来らしたお殿様は友好的ばい！」民衆の心は少しずつ開き始めます。

そこで次の秘策です。「民衆の娯楽を認めてあげよう」貴重品である米を原料とする米焼酎の醸造を認め、またそれに
 伴う球磨拳やウンスンカルタなどの余興も大目にみました。
 民衆の暮らしも徐々に良くなり、藩の財政も立て直っていきます。民衆の心はグッとお殿様に傾いていき・・・



焼酎を飲みながら球磨拳に興じる様子

「さすがおどんたちの殿さんは違うばい。よかよか、どこ
 までもついて行くばい！」

ここまでくればしめたもの。相良のお殿様に対する忠誠心と自負心が芽生え、お殿様の庇護^{ひご}のもと
 と領民は伸び伸びと豊かな生活を営み、庚申信仰や三十三観音などの民間信仰も受け継がれるよう
 になりました。お殿様はこれまで倒してきた人々の荒ぶる魂
 を鎮め、神様としてまつり、永久に平和な統治が続くよう、
 最先端の技術・文化を取り込み、領内にどこか都ぶりの茅葺^{かやぶき}
 の社寺を造り、自ら祭や儀式も執り行いました。民衆は自分
 たちの土地にみごとな建物が建ったのを誇らしく思い、「お
 殿様、ここの管理は我々に任せてください！」こうして社寺
 の維持管理も地域に根付いていきました。

相良氏が滅ぼした平川氏を祀る
山田大王神社（山江村）

相良文化の特徴は、このように領主と民衆が一体となって
 形成され継承されたところにあります。相良のお殿様による
 秘策は、この地を治めるための必須条件でもあり、その後も歴代当主が継承し続けました。領民の
 信仰や思いに配慮しなければ、お殿様の地位も危ういものになるのです。

【現代に息づく相良文化】

こうして形成された相良700年の領民の意識は、お殿様が
いなくなった現代にも脈々と受け継がれています。民衆が
代々地域で信仰や儀礼を守り続けた結果、球磨神楽やおくん
ち祭りが盛んに行われ、今日では各地で姿を消した茅葺^{かやぶき}の建
造物も、この地ではごく当たり前の光景として至るところで
目にすることができます。相良氏により寄進^{きしん}されたり、ある
いは相良氏入国以前から守られた、この地域に数多く残る古
仏についても、往時のままの姿を拝むことができ、あたかも
時間が止まったかのように感じられます。また、球磨川沿い
に立ち並ぶ風情ある温泉旅館から、相良氏の居城 人吉城が
見え、その石垣に往時の相良氏覇権^{はけん}の情景を重ねることがで
きます。さらに、数百年の歴史を誇る世界ブランドの球磨焼
酎は、過去と現在をつなぐ共通の味わいを感じさせ、現在、
地元では“球磨の焼酎学校”など、焼酎文化を次世代に伝え
る取り組みが行われています。また、宴会の余興^{よきょう}として歌わ
れてきた民謡では、球磨の民謡の継承と普及を目的にした
“全国選手権大会”が開催され、全国の“のど自慢”が競い
合います。ウンスンカルタでは、保存会が毎年“全国大会”
を開催、球磨拳では、多良木町が“世界大会”を開催し、い
ずれの大会も子供から大人まで出場して大きな盛り上がり
をみせてます。相良三十三観音めぐりは、春秋のお彼岸^{ひがん}に行
われる「御開帳^{ごかいちよう}」を目当てに札所^{ふだしょ}をめぐる大勢の人たちで賑わ
い、地域の方々の温かい「お接待^{せったい}」も相まって、身も心も清められ癒されます。

相良のお殿様と民衆によって創り上げられた人吉球磨の歴史遺産の特徴は、領主から民衆までが
一体となったまちづくりの精神を基に、社寺や仏像群、神楽等をともに信仰し、楽しみ、守る“保
守”の文化、したたかに外来の文化を積極的かつ大胆に吸収した“進取”の文化、さらに、その二
つの文化がさらなる昇華を遂げかたちづくられたものであることです。

肥薩線などの近代文明が到来した明治時代、相良氏700年の統治には終止符が打たれますが、
相良氏と領民による文化とそれがもたらした歴史遺産は、現代の人吉球磨に生きる私たちの日常生
活と深く関わっており、いわば“生きた歴史遺産”といえるのです。

このような独特な文化の形態は、まさに人吉球磨でしか見ることができず、昭和を代表する歴史
小説家である司馬遼太郎は、その著書『街道をゆく』の中で、人吉球磨の地を「日本でもっとも豊
かな隠れ里」と絶賛しています。



球磨神楽（人吉球磨全城）



城泉寺阿弥陀三尊像（湯前町）



対岸より望む人吉城跡（人吉市）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	こうのせすみよしじんじゃ 神瀬住吉神社	県重文 (建造物)	航海の神として、球磨川を行き来する藩主や船頭たちの信仰を集めてきた神社。	球磨村
2	しろやまかんのんどう 城山観音堂の じゅういちめんかんのんぼさつぞう 十一面観音菩薩像	村有形 (彫刻)	戦国期の相良氏当主が造らせた仏像で、周辺住民が代々大切にしてきた仏様。	山江村
3	たかてらいん 高寺院	国重文 (彫刻) ほか	相良氏が滅ぼした矢瀬氏による草創ながら、代々の相良氏が手厚く保護した寺院。	山江村
4	やまだだいおうじんじゃ 山田大王神社	国重文 (建造物)	相良氏が、滅ぼした平河義高の二男の藤高の怨霊鎮魂のために建立した神社。	山江村
5	いのくちはちまんじんじゃ 井口八幡神社	県重文 (建造物) ほか	領主相良氏の「戦の神」として代々保護を受けてきた神社。	人吉市
6	ひとよしおんせん 人吉 温泉	未指定	戦国時代の 12 代相良為統が湯治したという記録が残る人吉球磨で最古の温泉があり、民衆も疲れを癒した。	人吉市
7	あおい あ そ じんじゃ 青井阿蘇神社	国宝 (建造物)	領主相良氏の保護を受け、江戸時代には人吉藩領内の惣鎮守として藩主・民衆の信仰を集めた神社。	人吉市
8	ウンスンカルタ	県重無民	江戸時代中期に幕府に禁制され廃れた中で、全国で唯一、人吉藩領のみ遊戯法が継承された。現在では人吉市の民間団体が継承する。	人吉市
9	おいのみじんじゃ 老神神社	国重文 (建造物)	領主相良氏の氏神として保護され、周辺住民から「老神さん」として親しまれ信仰を集める神社。	人吉市
10	ひとよしじょうあと 人吉 城跡	国史跡	球磨郡を統一した相良氏が、戦国期以降、江戸時代を通じて、代々居城とした城。御館前の堀に架かる石橋が完成した時、郡内の臼太鼓踊り組が 40 組終集結し、お祝いのため 12 日間にわたり踊りを披露し、藩主と領民、共に祝った。	人吉市
11	だいしん じ 大信寺	県重文 (彫刻) ほか	22 代相良頼喬母の菩提寺。この母が帝王切開の末、頼喬を出産し亡くなったと伝わり、後に安産を願う民衆の信仰を集めた。	人吉市
12	がんじょうじ 願成寺と相良家墓地	国重文 (彫刻) ほか	領主相良氏の菩提寺の第一で、江戸時代は郡内の宗教世界を束ねる地位にあった格式高い寺院。裏に代々当主の墓が集められ、藩主の命日には庶民の参拝も盛んに行われた。	人吉市
13	いわやくまの ざ じんじゃ 岩屋熊野座神社	国重文 (建造物)	領主相良氏による度々の修造が行われた神社。熊野信仰の広がりとともに民衆の信仰を集めた。	人吉市
14	ひがしまた にしまた あ そ じんじゃ 東 俣・西俣阿蘇神社	未指定	江戸中期、五木村の民衆との結びつきを重視する藩主が代参を続けた神社。	五木村

15	あまみやじんじゃ 雨宮神社	未指定	雨乞いに霊験があるとして、領主・民衆から信仰を集めた神社。戦国期の雨乞いのエピソードが特に有名。	相良村
16	としますがわらじんじゃ 十島菅原神社	国重文 (建造物)	この地域で最大の天神様として、領主から民衆まで信仰を集めた神社。	相良村
17	いざおくまのざじんじゃ 井沢熊野座神社	県重文 (建造物)	16代相良長唯(義滋)により再興された神社。民謡「球磨の六調子」にも歌われるほどの名所として、民衆に親しまれた神社。	相良村
18	このもとじんぐう 木本神宮	町有形 (建造物)	13代相良長毎が市房山神宮を勧請し建立、相良氏代々が手厚く保護し、民衆に守られてきた神社。	錦町
19	しょうふくじ 勝福寺関連文化財	国重文(彫刻) ほか	勝福寺は相良氏入国以前の在地豪族の菩提寺ながら、相良氏による保護を受け続けた寺院。	あさぎり町
20	すえあそしやかどう 須恵阿蘇釈迦堂	未指定	在地豪族の須恵氏が創建し、相良氏代々が保護した。釈迦三尊像が民衆に大切に守られ続けている。	あさぎり町
21	やまのうえはちまんじんじゃ 山上八幡神社	町有形 (建造物)	戦国時代に滅ぼした上村氏を供養するために、安土桃山時代になり相良氏が建立した神社。	あさぎり町
22	おうぐうじんじゃ 王宮神社	県重文 (建造物)	多良木地域の鎮守として、相良氏の手厚い保護を受け民衆の信仰を集めた神社。萱葺屋根の楼門は日本最古級。	多良木町
23	しょうれんじあみだどう 青蓮寺阿弥陀堂	国重文 (建造物)	鎌倉時代以降の多良木相良氏代々の菩提寺で、民衆の信仰を集めた。郡内に残る中世的な景観の代表的な場所の一つ。	多良木町
24	おたけじゅうたく 太田家住宅	国重文 (建造物)	江戸時代、藩の許可を受け焼酎作りを行っていた民家。焼酎文化の盛行を示す。	多良木町
25	たらぎさがらし 多良木相良氏関係史跡	県重文(建造物)ほか	相良氏が鎌倉時代に下向した後、在地に受け入れられるまで苦心した時期の館跡と、その当時、民衆のために開削した灌漑用水などの史跡。	多良木町
26	くめはるよりじんじゃ 久米治頼神社	町有形 (建造物)	当主に反乱を起こし滅ぼされた相良治頼とその母を供養するため、戦国時代に建立された神社。	多良木町
27	つきぎおたいしどう こうぼうだいし 槻木大師堂の弘法大師 ぞう 像	県重文(彫刻)	郡内における民衆の大師信仰の広まりを受け、室町時代前期に相良氏を願主として造られたもの。	多良木町
28	じょうせんじ はっしょうじ 城泉寺・八勝寺阿弥陀堂	国重文(建造物)ほか	在地豪族久米氏が建立したといわれるが、その後も相良氏や民衆の厚い保護・信仰を受けて、堂舎と本尊、石塔群が中世の景観を今に伝える。	湯前町
29	おだいしどう 御大師堂	県重文(彫刻) ほか	郡内で領主から民衆まで広まっていた大師信仰を受け、大切に守られてきた大師堂と御大師様。	湯前町
30	しょうぜんいんかんのんどう 生善院観音堂	国重文 (建造物)	人吉藩化け猫騒動にちなむ観音堂。市房山神宮参詣時には藩主が立ち寄った。「狛猫」が参拝客を迎える。	水上村
31	いちふきやまじんぐうほんぐう 市房山神宮本宮	未指定	郡内最高峰の市房山を信仰の対象とした神社。郡鎮守であり、歴代の相良氏を始め、民衆も「御お嶽さん参り」と呼んでしばしば参詣した。	水上村

32	く ま しょうちゅう 球磨 焼 酎	未指定	人吉球磨地域において、江戸時代では貴重だった米を主原料としての醸造が相良氏によって認められ、庶民に至るまで愛飲された酒。450 年以上の歴史を誇る。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
33	ひやくたろうみぞ こうのみぞ 百太郎 溝 と 幸野溝	未指定	人吉藩領内の米生産を支えた長大な灌漑用水。藩や地域住民により長い年月をかけ開削事業が行われ難工事の末に完成した、現役の用水である。この 2 つの用水は、平成 28 年 11 月 8 日「世界かんがい施設遺産」に登録された。	錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村
34	人吉球磨の民謡	未指定	人吉球磨地域の民衆に長く唄われてきた民謡は、人々が集まると誰ともなく自然と唄われ始める。特に宴会で焼酎が始まると終わりを知らない。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
35	しょうちゅうばか 焼酎墓	未指定	酒好きの人間であったことを思わせる戒名や、墓石の笠が盃であるなど、焼酎文化を伝える墓。	人吉市・錦町・多良木町
36	く ま けん 球磨拳	多良木町無民 ほか	じゃんけんのルーツとも言われる拳遊び。宴会の余興としては、勝負に負けた方が焼酎を飲むのだが、焼酎飲みたさにわざと負ける者もいたとか。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
37	こうしんしんこう こうしんとう 庚申 信仰 と 庚申 塔	県重民ほか	戦国期以降に流行する庚申信仰に係る庚申塔。他地域のものより巨大な庚申塔が、数多く人吉球磨地域に現存している。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
38	さがらさんじゅうさんかんのん 相良三十三観 音めぐ り	人吉市無形民 俗ほか	人吉藩家老井口氏により藩内に三十三観音が選定され、御詠歌が作られて以後、各札所は地域住民の精神的な拠り所として信仰を集め続けている。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・山江村・球磨村
39	く ま かぐら 球磨神楽	国重無民	青井阿蘇神社おくんち祭の宵宮奉納を皮切りに郡内 43 神社で奉納されてきた神楽。相良氏の厚い保護を受けた神楽の見物は民衆の娯楽でもあった。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
40	うすだいこおど 臼太鼓踊り	県重無民ほか	相良氏による武道奨励・士気鼓舞を目的に始められたとされる踊り。領民によって長く伝承され、現在も郡内各地で踊り続けられている。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
41	く ま がわ 球磨川	未指定	相良氏は、水量が豊富な豊富な球磨川を交通および米や木材などの物資の輸送に大いに利用した。明治時代に入り鉄道運輸に取って代わられるが、水運の伝統は、現在の観光「くま川下り」に受け継がれている。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・球磨村

42	ながとめさがら し じょうかくぐん 永留相良氏城郭群	山田城跡 村史跡 高城跡 未指定	相良氏 2 代相良頼親を祖とする永留相良氏が人吉城に拠点を移すまで、勢力の伸張とともに築きあげた城が山田城・高城である。	山江村
43	おくんち祭り	未指定	相良氏統治時から続く青井阿蘇神社の秋の例大祭。	人吉市
44	ひとよしほんこてきたい 人吉藩鼓笛隊	未指定	幕末に薩摩藩の影響を受け英国式兵制を取り入れた際に組織された鼓笛隊。音色から「ヒーロイロイ」と呼ばれ親しまれている。	人吉市
45	いわんじょうあと 岩城跡	未指定	別名：木上城。江戸時代の『球磨絵図』にも記載がある中世山城で、在地豪族の平河氏の居城であった。江戸時代、城内には木本神宮が建立された。	錦町
46	あらただいおうじんじゃ 荒田大王神社	町有形 (建造物)	相良氏が滅ぼした在地豪族の平河氏の霊を鎮めるために建立した神社。	錦町
47	あらたかんのんどう しやかによらいぞう 荒田観音堂の釈迦如来像	釈迦如来像 県重文（彫刻）	相良氏入国前の在地豪族である平河氏が造立したと考えられる平安仏。	錦町
48	しやりゅうけんぼう タイ捨流剣法	町無形 (古武道)	戦国時代、相良家家臣丸目蔵人佐長恵によって創始された剣術。長恵は相良家の剣術指南役として仕え、以後、相良家や藩士によって学ばれた。	錦町
49	うえむらさがら し 上村相良氏関連遺跡	町史跡など	戦国時代、相良氏の庶流から本家を相続した上村氏の城跡・墓等。	あさぎり町
50	しら がじんじゃ 白髪神社	未指定	青井阿蘇神社の流れをくむ上村相良氏の氏神社。安産または慈雨の神として、代々の相良氏女が懐胎の節には安産祈願、干ばつの節は藩令をもって雨乞い祈願がなされた。	あさぎり町
51	たにみずやくしどう 谷水薬師堂	町有形 (建造物)	室町時代の創建と伝えられる上村氏の菩提寺を上村氏滅亡後に相良氏が再興した堂。	あさぎり町
52	おかどめく まの ざじんじゃ 岡留熊野座神社	未指定	人吉相良氏第 3 代頼俊が、鎌倉時代後期の蒙古襲来に際し、強敵を退け国家安定を祈り創建したとの由来を持つ神社であり、以後も、相良氏や家臣・領民によって大切に守られてきた神社である。	あさぎり町
53	ふかだだいおうじんじゃ 深田大王神社 (深田阿蘇神社)	未指定	相良氏は、人吉球磨支配の過程において、在地豪族の平河氏を滅ぼした。平河氏のうち盛高（義高の長男）の霊を鎮めるために、相良氏が建立した神社。現在は、深田阿蘇神社に合祀されている。	あさぎり町
54	いちふさやまじんぐうげぐう 市房山神宮下宮 さとみやじんじゃ (里宮神社)	未指定	市房山にある本宮まで登ることが出来ない人々が詣でる神社。	湯前町
55	いちふさやまじんぐうちゅうぐう 市房山神宮中宮	未指定	大同 2 年（807）に市房山神宮を造営する際に、仮殿が置かれ、後に、その跡地に霧島神宮社の神を	水上村

	いちのみやじんじゃ (一の宮神社)		勧請したのが一の宮神社である。当時の「お嶽さん参り」コースの一つで、市房山神宮本宮を目指す藩主や領民の唯一の休憩場所としても利用されていた。	
56	たけ まい お嶽さん参り	未指定	領主相良氏が、領民に勧めた旧球磨郡内の最高峰である市房山への参詣。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
57	さがら し かんれんこう 相良氏関連古道	未指定 一部は山江村史跡	人々が交流し、有形・無形の文化をもたらした人吉球磨に通じる古道。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

1. 神瀬住吉神社



2. 城山観音堂の十一面観音菩薩像



3. 高寺院



4. 山田大王神社



5. 井口八幡神社



6. 人吉温泉



7. 青井阿蘇神社



8. ウンスンカルタ



構成文化財の写真一覧

9. 老神神社



10. 人吉城跡



11. 大信寺



12. 願成寺と相良家墓地



13. 岩屋熊野座神社



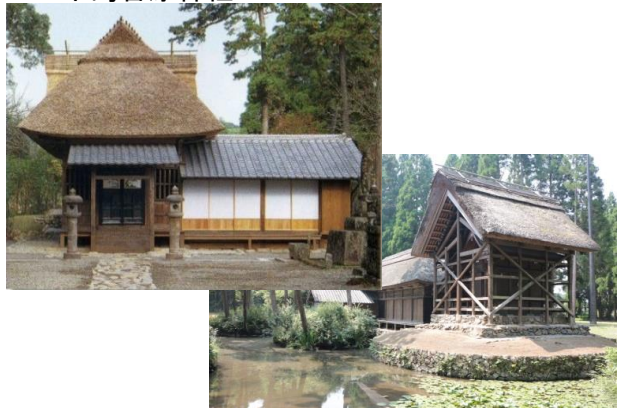
14. 東俣・西俣阿蘇神社



15. 雨宮神社



16. 十島菅原神社



構成文化財の写真一覧

17. 井沢熊野座神社



18. 木本神宮



19. 勝福寺関連文化財



20. 須恵阿蘇釈迦堂



21. 山上八幡神社



22. 王宮神社



23. 青蓮寺阿弥陀堂



24. 太田家住宅



構成文化財の写真一覧

25. 多良木相良氏関連史跡



26. 久米治頼神社



27. 槻木大師堂の弘法大師像



28. 城泉寺・八勝寺阿弥陀堂



29. 御大師堂



30. 生善院観音堂



31. 市房山神宮本宮



32. 球磨焼酎



構成文化財の写真一覧

33. 百太郎溝と幸野溝



34. 人吉球磨の民謡



35. 焼酎墓



36. 球磨拳



37. 庚申信仰と庚申塔



38. 相良三十三観音めぐり



39. 球磨神楽

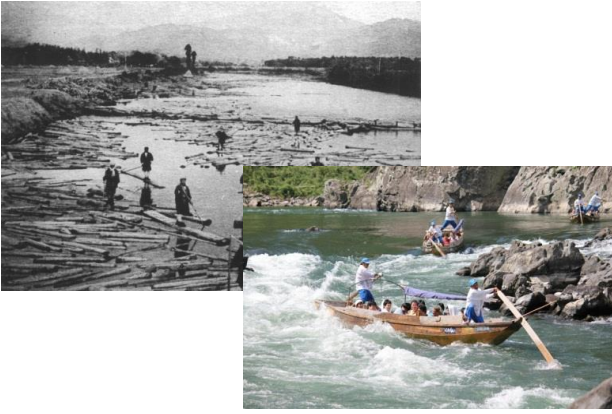


40. 臼太鼓踊り



構成文化財の写真一覧

41. 球磨川



42. 永留相良氏城郭群



43. おくんち祭り



44. 人吉藩鼓笛隊



45. 岩城跡



46. 荒田大王神社



47. 荒田観音堂の釈迦如来像



48. タイ捨流剣法



構成文化財の写真一覧

49.上村相良氏関連遺跡



50.白髪神社



51.谷水薬師堂



52.岡留熊野座神社



53.深田大王神社(深田阿蘇神社)



54.市房山神宮下宮(里宮神社)



55.市房山神宮中宮(一の宮神社)



56.お嶽さん参り



構成文化財の写真一覧

57.相良氏関連古道

